

兵庫県三木市内で確認したホシミスジ幼虫の食餌状態からの帰巣行動

立岩幸雄¹⁾・今井勝彦¹⁾

2025年11月11日、兵庫県三木市内の休耕畑の明るい草地でホシミスジ *Neptis pryri* の若齢幼虫（3 齢幼虫）がユキヤナギ *Spiraea thunbergii* の葉を食しているところへ不意に接近した筆者達に気が付き、食餌を中断、自身の巣に戻るまでの一連の行動を確認・撮影した。福田ほか（1983）では「本種の幼虫は葉の先端部を袋状に綴って巣を造り、その中に入る。…幼虫はときどき巣から出て葉を食べる」と記述されているが、今回の観察はこの記述を裏付けるとともに、時間的な経緯を加える形で報告する。

観察日時：2025年11月11日 12:00～12:20

観察地：兵庫県三木市別所町這田

観察地の状況

加古川河岸段丘の上部に広がる平坦地、休耕畑の一角にある明るい草地に生えるユキヤナギの株である（図1）。ユキヤナギ自体、植栽されたものか、種子が飛来し発生・成長したかは不明だが、近傍に民家がないこと

から後者であると思われる。観察した葉および幼虫・巣は地上高113cmであった。

幼虫・巣の発見

本種の独特な巣の形状を頼りに今井がユキヤナギを探したところ、わずか数分で巣を発見（図2）。併せて隣の葉を食している若齢幼虫を発見した。なお毎年5月後半、このユキヤナギの周りを多数のホシミスジ成虫が活動していることもあって、本種の幼虫を探すには最適のユキヤナギである認識のもと調査に至った。幼虫発見の連絡を受けた立岩はすぐ観察・撮影を開始し、食餌中断から帰巣するまでの一連の行動を記録した。幼虫の行動が見られたユキヤナギの枝葉の概略図および一連の行動写真を時間の経過を加え以下に示す（図3-4）。

幼虫の体長：約5mm

幼虫の移動距離：約69mm（葉A：30mm・枝：7mm・葉B：32mm）

帰巣時間：290秒（4分50秒）

移動速度：0.23mm/秒



図1. ユキヤナギの株の全景（最大高約1.8m）。



図2. 中央やや左に巣が見える。

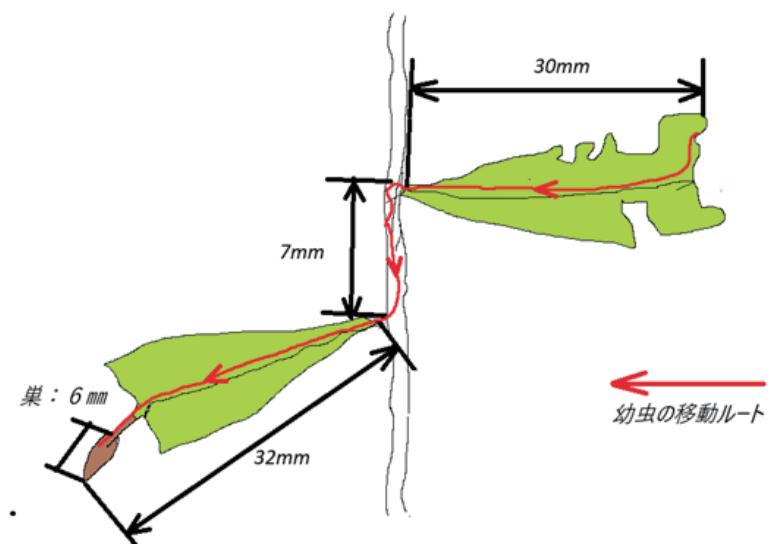


図3. ホシミスジ幼虫が帰巣したユキヤナギの枝葉の模式図。

¹⁾ Yukio TATEIWA・Katsuhiko IMAI 加古川の里山・ギフチョウ・ネット

考察

観察結果から導き出した幼虫の移動速度 = 0.23 mm / 秒について、数値だけ見ればのろのろと遅いように感じるかもしれないが、実際の観察において、葉の上を直線状に移動する際には撮影時のピント合わせの時間が充分取れないほど素早い動きであった。また帰巣行動に当たって、食餌していた葉を移動する際、葉の付根の部分を舐めるように巻き付き、自分の巣のある葉への道をしっかり確認しているように感じられた。正確に自分の巣に戻るために何かの“道しるべ”を付着させているか、あるいは、糸を吐いて、これを“道しるべ”にしている可能性も感じた。今回の一連の行動について、時間的に短くかつ対象物が小さいこともあり、通常なら見逃されてしまう行動であるが、じっくり観察してみると、本種の幼虫期において、食餌状態からの緊急避難とも思える帰巣がいかんして成立しているかの一端が垣間見えて興味深い観察結果となった。

引用文献

福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之, 1983. 原色日本蝶類生態図鑑 (II). 325pp. 保育社
 広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 332pp. 岩峰社



図 4. ホシミスジ幼虫の一連の行動.